

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	2371500766
法人名	株式会社アイ・ユースネット
事業所名	グループホーム とまり木名東
訪問調査日	平成21年1月16日
評価確定日	平成21年2月13日
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社 ヤトウ

項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法
[取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
[取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。
[取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年2月16日

【評価実施概要】

事業所番号	2371500766
法人名	株式会社アイ・ユUNET
事業所名	グループホーム とまり木名東
所在地	名古屋市名東区猪子石三丁目113番地ワークステーションビル1階 (電話) 052-779-8778

評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社 ヤトウ		
所在地	名古屋市中区金山一丁目8番20号 シャローナビル7階		
訪問調査日	平成21年1月16日	評価確定日	平成21年2月13日

【情報提供票より】(平成20年12月25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 15年1月15日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	13 人 常勤 3人, 非常勤 10人, 常勤換算 6.3人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	4階建ての 1~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	29,400 円	その他の経費(月額)	22,050 円	
敷金	有(円) (無)			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	231 円	昼食	399 円
	夕食	399 円	おやつ	105 円
	または1日当たり		円	

(4) 利用者の概要(平成20年12月25日現在)

利用者人数	8名	男性	0名	女性	8名
要介護1	1名	要介護2	2名		
要介護3	2名	要介護4	2名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 73歳	最低	80.5歳	最高	88歳
協力医療機関名	種田クリニック				

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは新興住宅地にある4階建てビルの1、2階を使用している。通常入居者は日中1階のリビングで過ごしている。職員は感謝や尊敬の念を持ち入居者の気持ちをしっかりと受けとめ寄り添った介護に努めている。毎月季節にあった貼り絵のカレンダーづくり、歩行訓練の目安に玄関からお風呂場までの床にテープを貼ったりと日常生活の中にさりげなくリハビリ要素を取り入れ、高齢、重度化のなか「できること」を楽しんでできるよう工夫している。職員がコミュニケーションよく日々しっかり入居者を大切に介護を行っているので開設当初より外出支援としての月1回バス旅行が存続できている。家族にも呼びかけ、季節感を感じられ、希望のある場所などへ弁当持参で出かけ職員も共に楽しんでいる。訪問当日は1月の誕生会と6周年祭が行われ、レクリエーションでカラオケを楽しんでいた。今後さらに地域の行事に参加する等、地域に根付いた笑顔あふれるホームを目指している。

【重点項目への取組状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の調査で特に改善項目はなかった。評価について結果で終わることなくさらに課題(レクリエーション参加率の低下)を見つけ改善に向けて取り組むことにより一層のサービスの質の向上に繋げている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は職員全員で取り組んだ。項目数が多く職員には難しい点もあり時間もかかったが日々行っている介護を書面で点検、確認、振り返りができ、勉強になったと感じており、今後の介護の統一性や自己成長に結びつけていきたいと考えている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>3月に自治会長、民生委員、訪問看護、家族代表、ホーム代表、管理者が参加して開催し、添付資料を基に行事や医療連携等を報告、レクリエーション等の写真も回覧している。地域の役員が2年で入れ替わり参加が困難で、それ以後の開催は無く次回は参加者の調整後を予定している。会議では活発に意見交換され、質問に対する返答や外部評価の報告をし、地域の課題点を知ることもできる。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>面会時、運営推進会議を家族とのコミュニケーションの機会とし、今までに特に苦情もない。家族は訪問時に直接話しをしており、管理者も話しやすい環境づくりに努め、家族の意見、疑問、不満に柔軟に対応するようにしている。アンケート結果からも家族は何かあれば都度相談でき、意見が反映されていると感じている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入し、回覧板で地域の情報を得て盆踊り、運動会、敬老会等地域活動に積極的に参加している。散歩時や公園では挨拶や子どもとの交流に努め、玄関先に花やベンチを置いたり、掲示板にホームの行事案内を掲示して気軽に立ち寄ってもらえるようにしており、地域の方々が犬の散歩で立ち寄ることもある。行事の際のフラダンス、落語等のボランティア、また、専門学校の実習生の受け入れをしている。1月3日には平和が丘神社へ初詣に出かけた。</p>

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「最善の介護サービスを最高の誠意と人間愛を持って」という支援理念の中に地域社会への貢献を盛り込んでいる。経営理念に地域に愛されるホームを運営すると謳っている。地域行事に積極的に参加することで地域交流を図り、地域密着型サービスの果たすべき役割を反映した理念となっている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念はリビングに掲示されている。全職員名札の裏に理念を入れ日々確認し、意識するようにしている。カンファレンス等で最善の介護、方向性について考え、管理者は「入居者のことを第一に考え受けとめた介護の実践を」と話し、具体的なケアの統一を図っている。家族へは面接時より説明して理解を得ており、地域の方へは運営推進会議を通じて理解を求めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、回覧板で地域の情報を得て盆踊り、運動会、敬老会等地域活動に積極的に参加している。散歩時や公園では挨拶や子どもとの交流に努め、玄関先に花やベンチを置いたり、掲示板にホームの行事案内を掲示して気軽に立ち寄ってもらえるようにしており、地域の方々が犬の散歩で立ち寄ることもある。行事の際のフラダンス、落語等のボランティア、また、専門学校の実習生の受け入れをしている。1月3日には平和が丘神社へ初詣に出かけた。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員に「介護をよりよくするための見直し」と評価の意義を伝え、全員で自己評価に取り組んだ。職員には難しい項目もあったが、日々行っている介護を書面で点検、確認、振り返りができ、勉強になったと感じており、今後の介護の統一性や自己成長に結び付けていきたいと考えている。前回の調査で特に改善項目は無かったが、サービスの向上に向け参加率の低下が見られるレクリエーションについて検討した。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>3月に自治会長、民生委員、訪問看護、家族代表、ホーム代表、管理者が参加して開催し、添付資料を基に行事や医療連携等を報告、レクリエーション等の写真も回覧している。地域の役員が2年で入れ替わり参加が困難で、それ以後の開催は無く次回は参加者の調整後を予定している。会議では活発に意見交換され、質問に対する返答や外部評価の報告をし、地域の課題点を知ることができる。</p>		<p>今年度は3月以降開催がない。会議は地域の理解、支援を得る貴重な場であり、地域交流促進のための話し合いの場であることから参加可能な人材を選び定期的な開催を期待したい。</p>
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>区役所へ1カ月に1回定期的に行事報告書、運営推進会議議事録、外部評価結果等を渡して情報提供し活動状況等を把握してもらっている。運営上の疑問点や他施設の対応方法などを名古屋市の担当者に電話したり、直接出かけて意見交換しサービスの質の向上に努めている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>職員は家族の面会時に口頭でホームでの暮らしぶり、健康状態を伝え、特に状態に変化があったり、来所が難しい時には電話等で速やかに連絡をとり、信頼関係を築いている。毎月家族へ行事報告書、行事の際の本人様の写真、行事予定表を郵送しているが、書面は一方的になりやすいので面会時を最大限に活用している。入居者の重度化とともに実際の金銭の支払いが困難となり、基本的にホームで金銭の預かりもしておらず、買い物時には立て替え払いし、明細書と請求書を送付して家族へ請求している。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会時、運営推進会議を家族とのコミュニケーションの機会とし、今までに特に苦情もない。家族は訪問時に直接話しをしており、管理者も話しやすい環境づくりに努め、家族の意見、疑問、不満に柔軟に対応するようにしている。アンケート結果からも家族は何かあれば都度相談でき、意見が反映されていると感じている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>管理者は離職を最小限に抑え馴染み職員で対応することが大切であると考えている。家族には離職、新たな職員を配置する場合にはきちんと紹介し信頼関係を築くようにしている。職員同士は助け合い働きやすい環境で仲がよく、何でも話しやすい関係ができしており、同じ気持ちを共有することでストレスの軽減にもなっている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修は現場にてマンツーマンで個々に合わせた期間実施している。代表は認知症ケアは現場で働きながら学ぶことで経験し理解していくことが大切と考えている。外部研修は参加した職員がミーティングで報告したり、講習内容をまとめたレジメを作成して回覧、或いは個々に配布、情報を共有し介護の質の向上を目指している。スキルアップも希望に沿って支援している。		職員各自の立場、経験に応じた段階的な学びの必要性を理解し、研修会の参加やホーム内で勉強会の時間を確保し、より向上に向けた育成に努められたい。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	愛知県認知症グループホーム連絡協議会、名古屋市認知症グループホーム協議会に加入し、講習会等を利用し他事業所との意見交換、情報交換をしている。管理者が他ホームを見学しノウハウを学びサービスの向上に役立てている。職員や入居者が同法人の守山のホームの行事に参加したり、名東へ招待したりして交流を図っている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入居はないが、入居相談から入居に至るまでの間になるべくホームへ来てもらい入居者と過ごし、コミュニケーションを取り、少しでも場の雰囲気を感じてもらいたいと考えている。ホームのサービス内容をしっかり伝え、介護だけでなく生活全般を支えていくという観点から本人、家族にとって最高のもの、最善を検討するよう努めている。面談時には代表、管理者、職員それぞれが立会い様々な角度から気づきを話しあい、本人や家族の困っていること、疑問や不安、実情や要望などを聞き信頼関係の構築を図っている。入院の場合は何回か面談に出かけ安心してもらうよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	三食を共にし、生活活動全般（掃除、料理、洗濯等）や行事、外出を通じて喜怒哀楽を共にし、介護される一方で、共に暮らす共生者として入居者に尊敬の気持ちを持ち、人格を尊重したサービスに心がけ、共感し支えあう関係づくりに努めている。若い職員は料理、昔のことなど教えてもらうことも多く、日々の関わりの中で過去の経験、得意話を活かす工夫をしている。「ありがとう」と感謝されたり、入居者の「笑顔」が職員の「元気の源」につながっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>本人や家族との面談時の聞き取りや入居後の関わりを通じて生活歴、生活スタイル、希望や意向等の把握をしている。入居者の高齢、重度化で把握が困難な場合が多くなっているが、各々の表情や態度、行動を観察し家族の協力も得て思いを汲み取り介護に活かしている。把握した情報は記録に残しカルテに入れ職員間で共有している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>日常の会話の中から入居者の思いや意向を確認し、家族には訪問時や介護計画の変更に関する用紙に記入してもらい確認している。計画作成担当者はアセスメントを基に入居者の思いや家族の要望、職員が日々の関わりの中で気づいたことなどを取り入れ、介護計画を作成している。入居者がその人らしくよりよく暮らすことができるように、ケアカンファレンスで話し合い、それぞれの意見や気づきを反映した介護計画となっている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>職員と計画作成担当者が定期的にケアカンファレンスで話し合い、継続、見直しの評価を行なって、3カ月に1回見直しをしている。新たに出た課題や特に注意して欲しいことはカンファレンスファイルに記入し、職員はサインし情報を共有している。本人や家族から新たな要望や状態に変化があれば、その都度見直しを行わない現状に即した介護計画を作成している。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>毎週訪問看護の訪問や医療連携体制加算を受けての24時間連絡可能な体制があることが、入居者、家族、職員の安心に繋がっている。入院時には入居者への見舞いを行ない、早期退院に向け情報交換を行なっている。家族の要望で提携医療機関以外の通院介助の代行を行なっている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の内科医の訪問診療が2週間に1回あり、健康チェックと診察を受けている。本人や家族が希望するかかりつけ医でも受診することができる。急変、応急マニュアルがあり何かあれば直に医師や看護師に連絡を取り、指示が受けられるようになっている。訪問歯科も週1回訪問があり口腔ケアや治療など行なっている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重度化した場合における対応に係る指針」があり、身体状況の急変に伴いホームとして対応できること、できないことを入居時に説明し同意を得ている。今までに終末期の経験はないが、今後状況に応じては、医師、看護師、家族、職員で話し合い、最善を尽くしてやっていきたいと考えている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日々の関わりにおいて職員は入居者の誇りやプライドを損なう言葉かけや対応をしないように心がけている。情報交換をする場所や会議をする時には個人名を伏せるなど、個人情報の漏洩防止に気をつけている。作品、写真の掲示や行事、誕生会などの名前の記載に関しての同意書があり、入居時に同意を得ている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな1日の流れはあるが、職員は入居者の顔を見て気持ちを汲み取りながら介護するよう心がけている。食事、就寝、入浴時間などは体調や精神状態、一人ひとりのペースを大切に、希望に沿ったその人らしさの実現に向け支援している。ただ体力やレベルの低下により役割や楽しみごとを活かすことが難しくなっているので、無理強いはずせず意欲を引き出すようにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は簡単な皮むき、筋取り、味見などできることはやってもらうよう声をかけ支援している。訪問時に懐メロの音楽が流れる中、職員も食事介助をしながら入居者と一緒に食事し、皆が笑いながら楽しく食事をしている姿や、下膳はできないが自分の食器を重ねている姿が伺えた。苦手な物でも味付け、調理方法を変え、食べられるようになった入居者もいる。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週に3回(月・木・土)午後に入浴しているが、他の曜日でも希望に応じて入浴することができる。浴室の入口に「いつでもは入れる」と書かれたのれんがかかっている。菖蒲湯、柚子湯など季節感を大切にしたり、みかんの皮を入れて香りを楽しんでもらうなど工夫している。月に2~3回足のむくみ解消や感染予防のために足浴を行なっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	アセスメントや日々生活している中で得られた情報から、趣味、得意なこと、できることを一覧表で掲示したり、レクリエーション個人記録に記入して入居者の様子を職員はしっかりと把握している。季節に合わせた行事や外出、カラオケなどレクリエーションを企画し、入居者の楽しみ、気晴らしの支援に努めている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気のよい日は近くの公園に出かけたり、玄関先に椅子を出して日光浴をしている。また、買い物や写真、薬の受け取りなど車で出かけることもある。月に1回バスを貸し切り、入居者の行って見たい所や季節感を感じる所などに手作りの弁当を持参し、入居者全員でバス旅行を楽しんでいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入浴時や不穏時は安全確保のため鍵をかけることもあるが、日中は鍵をかけずに自由な暮らしを支援している。入居者が出て行く気配があればさりげなく声をかけ、止めるのではなく一緒について行くなどその時々に合わせて対応している。職員は一人ひとりの状態をよく把握しており、しっかりと連携がとれている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難対応防災マニュアルに従い年に2回（昼間・夜間想定）避難訓練を行っている。担架を使用しての搬送練習、応急手当、災害設備の説明など4階の関係者の立会いで、入居者と一緒に行なっている。災害時で職員が不安に思っていることなど質問事項を書き出し、消防署に提出し回答をいただいた。災害時の備蓄品は3日分保管している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は食材を配達してくれる業者の栄養士が1日1,600kcalを目安に作成している。行事などで入居者の好みのメニューに職員が変更することがある。食事摂取量や水分摂取量を介護記録に記入し、情報を共有している。身体状況に応じて食事形態(お粥、刻み)を個々に変え支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	1階には皆が寛げる居間や台所などがあり、入居者の状況をみながらソファや食卓テーブルなどの配置を変え、安全で生活しやすい環境づくりを常に行なっている。壁には行事や外出時の写真（普段見せない表情や楽しんでいる様子）が多く掲示され、入居者とのコミュニケーションに役立っている。また、書き初めや初日の出の共同作品（ちぎり絵）が飾られ、季節感を感じることができる。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は1階と2階にあり、扉には大きな字で名前を書いた紙を貼っている方や写真、自作の作品など思い思いに飾っている。入居者の馴染みの家具や仏壇、人形などを置き、壁には自作の習字、折り紙作品など飾って居心地のよい居室になっている。また、職員から母の日や敬老の日のプレゼントとして「いつでも皆のお母さんで賞」「いつも穏やかで賞」などの表彰状も貼ってある。		

 は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。